

<広告>

企画・制作/愛媛新聞社広告局



生き生き輝く

実家のおばあちゃんのように優しく子どもたちを見守る井出さん

井出サツミさん(67)
乳幼児親子の交流手助け

今治市玉川町鍋地
今治市シルバー人材センターが運営する「にこにこ広場 おおきくなれ」(今治市喜田村8丁目)のスタッフとして、週1回ペースで働いている。市の事業委託を受けた施設で、0歳からおむね3歳までの乳幼児と保護者の交流の場だ。井出さんは12年間の保育所勤務を含む38年間の地方公務員生活を終え、ボランティアや

手作りおもちゃで遊ん

成長する姿楽しみ

地域活動で活躍。その行動力や保育士経験を買われ、2009年の施設開設時にスタッフとして誘いを受けた。自らも1男2女を育て上げ、最近は近くに住む孫たちの世話をしている。にこにこ広場でも「実家のおばあちゃん」になったつもりで親子と接している。自分で利用できる。子育て経験豊かなスタッフが2人一組で見守り、一緒に体操したり、が楽しい」とほほ笑む。



親身になって利用者と接する辻さん(右)



地域活動で活躍。その行動力や保育士経験を買われ、2009年の施設開設時にスタッフとして誘いを受けた。自らも1男2女を育て上げ、最近は近くに住む孫たちの世話をしている。にこにこ広場でも「実家のおばあちゃん」になったつもりで親子と接している。自分で利用できる。子育て経験豊かなスタッフが2人一組で見守り、一緒に体操したり、が楽しい」とほほ笑む。

地域活動で活躍。その行動力や保育士経験を買われ、2009年の施設開設時にスタッフとして誘いを受けた。自らも1男2女を育て上げ、最近は近くに住む孫たちの世話をしている。にこにこ広場でも「実家のおばあちゃん」になったつもりで親子と接している。自分で利用できる。子育て経験豊かなスタッフが2人一組で見守り、一緒に体操したり、が楽しい」とほほ笑む。

「まあ、きれい。すっかりしたわ。来年も来てんよ」。こんな言葉を植木を剪定(せんてい)した後、よく依頼主からもらう。「このときが何よりうれしい」と桑野さん。そして、「よっしゃ、来年はもっといい仕事をしよう」と心に誓う。さらに専門書を読み込み、植え替えや消毒などの勉強もする。

8年前、定年を迎えた時、剪定講習を受けて入会し書を目にした。講習を受け、実習をこなし、認定会員証を得た。最初2、3軒だった依頼主は、今では68軒に増えた。切った枝はきれいに片付けられる。「こう切ってほしい」などの要望はできる限り聞く。剪定だけでなく「瓦」が

専門書読み剪定に励む

桑野 文男さん(67)

新居浜市船木



剪定を通していろいろな人と触れ合う桑野さん

受けた恩返したい

「定年後、いろいろ人に恩を受けた」。剪定技術を教えてくれたシルバー人材センターや先輩、仕事を依頼してくれる人…。『今日は私が恩返しをしたい』。センターのボランティア行事には積極的に参加し、後輩への指導を惜しまず、お年寄りに用事を頼まれると快く引き受ける。剪定の仕事は自らの生きがいであり、社会とのかかわりともなっている。

第二の人生

気配り心掛け訪問介護

辻 真佐子さん(73)

松山市祝谷5丁目

笑顔で元気届ける

一般的な定年退職の年代に達した後も、新たな生きがいを見つけ、豊かな「第二の人生」を歩む高齢者が増えている。そんな中から、県内のシルバー人材センターで仕事を得て、生き生きと働く人たちを紹介する。

「何も言わなくても、何をしてほしいか気づいて、ちゃんとやってくれる」と、利用者の信頼は厚い。長らく専業主婦をしていた辻さんが、松山市シルバー人材センターに会員登録したのは59歳のとき。「何か社会の役に立つことがしたいと考えた」。会員だった兄嫁から話を聞き、興味を持った

長いこと、介護保険の要介護を担当して約5年。併せて家事援助サービスを行っている。「ヘルパーとして介護保険の要介護・要支援者の訪問介護を行っている」。ヘルパーとして介護保険の要介護を担当して約5年。併せて家事援助サービスを行っている。

第二の人生

「『見守り』も身体介護の一つ。利用者に背を向けて作業しているときでも気を配り、何かあつたらあわてず対応するよう心掛けている」。ヘルパーとして介護保険の要介護・要支援者の訪問介護を行っている。併せて家事援助サービスを行っている。